

(事後評価)

生命（いのち）の科学で未来をつなぐ女性研究者への継続的支援モデル

(実施期間：平成 21～23 年度)

実施機関：東邦大学（総括責任者：山崎 純一）

プロジェクトの概要

女性研究者支援のための具体的な取組として、(A) 女性研究者支援推進体制の確立（点検、評価も含む）と意識環境整備 (B) 両立支援：研究支援員の配置、ワークシェア（常勤）・女性研究者のための新たな非常勤有給職位の創生、病児保育・学内保育の実施・調査・検証、若手へのメンターの配置、IT による相談業務やテレビ会議、在宅支援 (C) 女性研究者の増員、女子学生・院生へのキャリアパス支援、次世代女性研究者育成 (D) 特に女性医学研究者への復帰支援 (F) 情報公開等を行う。

(1) 評価結果

総合評価	目標達成度	取組の内容	システム改革の成果	実施体制	実施機関終了後における取組の継続性・発展性
A	a	s	a	a	a

総合評価：A（所期の計画と同等の取組が行われている）

(2) 評価コメント

自然科学系分野の女性研究者のニーズを踏まえ、環境整備、意識改革、裾野拡大の取組を精力的に推進しており評価できる。中でも准修練医制度の取組は、女性医学研究者がライフイベントを理由に第一線から退くことを回避するための柔軟な人事制度を考案、実践したものであり、他機関への波及効果が期待できる。

・**目標達成度**：計画した各種取組を順調に実施し、女性研究者のニーズに応えた現実的な支援を行っており評価できる。女性教員採用比率は目標値に僅かに達しなかったが、女性教員在籍比率は目標を大幅に上回り上昇した。

・**取組の内容**：感染症に対応した隔離室を備えた病児保育室の設置、妊娠中の女性研究者に対する研究支援員派遣制度等、工夫を凝らした先進的な取組を実施した。女性医学研究者のための柔軟な勤務体制の整備として導入した准修練医制度は特色的な取組であり、効

果的に運用が進められており高く評価できる。

・**システム改革の成果**：妊娠中・育児中の女性教員の業績の向上、上位職への女性研究者の登用、女子学生数の増加等、システム改革の確実な成果が見られる。さらに、准修練医制度、非常勤研究生制度等、女性医学研究者のための新たな勤務体制が整備されたことはシステム改革の成果であり評価できる。

・**実施体制**：学長直下の女性共同参画委員会、男女共同参画推進室を中心とし、外部委員からなる評価・アドバイザー委員会が設置され、企画・立案・実施・評価の基本システムを備えた実施体制が構築された。男女共同参画宣言の発表、感染症対応の病児保育室の迅速な開設、種々の制度改革の推進等、学長のリーダーシップが評価できる。

・**実施期間終了後における取組の継続性・発展性**：学長直属の男女共同参画センターを設置し、十分な予算を確保し、殆どの取組を継続することを決定しており評価できる。病児保育室を大学病院に移管し、また、女子学生のキャリア支援をキャリアセンターで実施する等、取組の継続性、発展性をよく考慮した今後の計画となっている。